資料１

令和５年10月18日
第５回日野市幼児教育・保育の在り方検討委員会用資料
市民委員・石田　健二郎

# 市民による公立幼稚園の在り方など日野市らしい幼児教育・保育の実現に向けた方策についての検討の議論

本報告の趣旨

本報告は、第４回日野市幼児教育・保育の在り方検討委員会(以後、本委員会)のテーマである「公立幼稚園の在り方など日野市らしい幼児教育・保育の実現に向けた方策について」について公立幼稚園の在園時と卒園児の保護者を中心とした市民で議論を行い、内容を本委員会に共有することで議論に役立てたいと考え、報告するものである。

検討内容

検討した内容は以下のものになる。

１公立幼稚園の必要性と子どもの権利
２公立幼稚園における複式学級の導入と効果
３かしのきシートの問題点
４ステップ教室の問題点
５学習ボランティア制度の効果の共有
６保護者の知識不足の問題

## １　公立幼稚園の必要性と子どもの権利

令和４年10月に第四幼稚園を対象とした公立幼稚園の閉園計画が出され、現在第四幼稚園の在園時と卒園児の保護者を中心とした市民と教育委員会との間で第四幼稚園の今後について話し合いが行われている。

公立幼稚園の卒園児の保護者の中には病気や児童の発達の度合い、定員を理由に私立幼稚園の入園を断られているケースが報告されており公立幼稚園の必要性を訴える声が多く挙げられている。また、入園できたとしても問題行動を起こしがちな児童はイベントの参加を拒否され、公立幼稚園に転園したという保護者もいた。

さらに、現在閉園が予定されている第四幼稚園がなくなった場合、日野市の東側地区に幼稚園がなくなってしまい、東側地区の市民は子どもを幼稚園に通わせたい場合、バス代を負担するか、遠くの送迎を強いられることになる。

以上のことから代替案なしに公立幼稚園の閉園を進めることは、日野市の掲げる「日野市子ども条例」に掲げる子どもの育つ権利及び参加する権利が守られないのではないかという懸念が示された。

２　公立幼稚園における複式学級の導入と効果

令和５年度より第四幼稚園では、園児減少により一部複式学級になっているが、この数か月でも効果が目覚ましく、年中クラス年長クラス共に良い効果が出ていると報告があった。具体的には、年中クラスにおいては、児童が年長クラスと同じ活動をすることで年長クラスをお手本にして意欲的に参加する様子がみられた。年長クラスにおいては、年中クラスの時にはわがままな様子が多く見受けられていた児童が、年中クラスと一緒に活動することで、面倒をみたり出来るようになり落ち着いた様子がみられた。

これらの効果は１学期の間という短い期間でみられており、将来的に前回の委員会で検討された「幼稚園に『複式学級』をあらたに設置して３歳児の受け入れを行い、異学年の交流を深める。」が実現出来るのではないかと考える。

３　かしのきシートの問題点

幼児期からの児童の特性について幼保小を越えて情報共有がされているかしのきシートだが、書く側はもちろん読む側にも専門知識が求められているのではないかという意見があった。

具体的な事例として、かしのきシートに「片付けが苦手」と記載があった場合に、それが児童の障害によって苦手なのか又は性格によって苦手なのか正確に読み解けないとその児童に対して適切な対応ができない。この例ではその児童は障害によって片付けが苦手であったのだが、読んだ側は片付けが苦手な性格であると読んでしまい、指導によって改善しようと試みた。結果として片付けができない状態が継続してしまい、保護者との面談まで齟齬があったことに気づけなかった。

このような事態を避けるためにも、小学校と幼稚園、保育園、保護者の間でより密な情報共有ができる仕組みを構築する必要があるのではないかという意見が挙げられた。

４　ステップ教室のキャパシティオーバー

ステップ教室を利用する児童が増えたことからステップでの支援が以前は課題の達成で終了していたのに対し、１年などの期間で区切られるようになった。

また、授業に参加できないような児童が優先してステップを利用しているので、大人しいが不安感を持っているような児童は後回しになっているのではないかという意見があった。

５　学習ボランティア制度の効果の共有

現在、第四小学校では保護者のボランティアが授業中に教室内で生徒の求めに応じて学習をサポートする取り組みが行われている。参加した保護者の感想として、ほぼ休みなくサポートの要請があり学習に不安を感じている児童が多いと感じたと報告があった。

他の小学校でも授業中の支援員を増やしてほしいと請願があったが、知っている保護者

が教室内にいると授業に集中できないのではないかとの懸念から不採択となっているが、第四小学校の学習ボランティアは原則自分の子どもがいない学年でサポートを行うことになっているのでこうした問題は避けられるのではないかと考える。

また副次的な効果として、教員以外の大人の目があることで授業に参加できていない児童にも参加するように促すことができるため、小一プロブレム解消にも効果が期待できるのではないかと考える。

６　保護者の知識不足の問題

私立幼稚園や保育園の入園を断られてしまった保護者はその場でエールに相談するべきではと勧められることが多い。実際には日野市内にも受け入れてくれる幼稚園や保育園がある場合がある。しかし、保護者が市内の幼稚園保育園の情報を網羅することは難しい上に願書を提出した後に入園を断られてしまうとその年度の入園は困難になる。二年保育に積極的な幼稚園もあるが、誰かに紹介されないと情報を得るのは困難であるように感じる。

保護者の知識不足を解消するためにも必要な情報を必要な人に伝える仕組みの構築が必要であると考える。

小括

「公立幼稚園の在り方など日野市らしい幼児教育・保育の実現に向けた方策について」について市民で議論を行ったが、挙げられた問題点についてはそれぞれの立場によって捉え方が異なる場合がある。本委員会での議論で少しでも市民との情報の非対称性を解消し、行き場のない子どもや保護者の不安を減らし、日野市の幼児教育・保育の在り方の検討を推進したい。